

一般助成(昨今の社会情勢により生活に困窮を抱えている若い世代(親子を含む)への支援)

「コロナ禍により増加している不登校・中退の子どもたちの居場所づくり」事業

社会とのつながりが失われる可能性のある子どもたちを フリースクールや訪問支援を通じてサポートする

県内中学校の不登校の割合が5年連続して全国で最も高かった宮城県だが、2020年度には全国8番目と改善された。県内においてコロナ禍によって、不登校や高校中退に陥っている子どもたちに対して安心して過ごせる居場所を提供し、心の回復と自尊心の向上をサポートすることで社会的自立を支える活動に取り組んでいる。



フリースクール「ふれあい広場サテライト」では、様々なイベントを実施



子どもたちの居場所を確保することで コロナ禍以後に想定される問題を防止

宮城県仙台市に拠点を置くNPO法人「アスイク」は、県や仙台市、岩沼市、白石市、多賀城市などと協働で、生活保護や一人親家庭の子どもを対象とした学習・生活支援事業の実施、不登校や中退などによって居場所を失った子どもたちのためのフリースクール「ふれあい広場サテライト」の運営、福祉型子ども食堂の運営、企業主導型保育園・小規模認可保育園の運営などを行っている。

新型コロナウイルスの感染拡大後、つながりのある生活困窮家庭を対象に食品支援を行いながら定期的なアンケート調査を実施してきたが、昨年4月時点で半数以上の家庭が減収に陥っており、学校休校中に4割以上の子どもたちが昼夜逆転の生活になっていることが明らかになり、

家庭内の問題や学校再開後の不適応が拡大することが予測された。そのため、不登校や中退などによって社会とのつながりが失われてしまう前に、子どもたちを受け止められる居場所を準備しておくことが将来の問題を未然に防ぐ意味でも重要だと考え、フリースクール事業の拡充に取り組むことにした。

この事業を通じ、不登校・ひきこもりの子どもたちに社会参加の場を提供することによって長期の引きこもりを未然に防止したり、子どもたちの状況が好転することで子どもの見守りの必要のなくなった保護者の就労改善を期待できたりするほか、地域の企業やボランティアの協力によってイベント等を運営することで、子どもの問題に当事者意識を持つ市民が増加するという効果が期待できると、考えている。

仙台市内3か所でのフリースクールや 訪問支援活動で子どもたちをサポート

フリースクール「ふれあい広場サテライト」は、昨年度、仙台市内3か所(仙台駅前、長町、泉中央)で、毎週火曜・木曜9:30~16:00(仙台駅前)、水曜・金曜9:30~16:00(長町、泉中央)で実施したが、今年2月末時点で、活動日数259回、登録者数99人、延べ利用者数2,501人となった。なお、利用者の中には生活困窮家庭が多く、自宅からスクールまでの交通費さえ捻出が容易ではないケースが少なくないが、そうした子どもたちの参加費を無料にするため、POSCからの助成の一部が役立てられた。それによって、ハイリスク世帯の子どもたちとよりつながりやすくなった。

利用者は右肩上がり増加を続けており、宮城県の

不登校・ひきこもり状態の子どもたちの受け皿として一定の成果を挙げている。また、昨年度から訪問支援活動も開始しているが、10人に対して31回実施することができた。

利用者の中には、両親がおらず、学校にも居場所がなく、リストカットや家出を繰り返していたが、フリースクールには通所することができるようになった、面談などの大事なことに関してスタッフと一緒に登校することができ、徐々に一人でも登校する日数が増えて、無事、志望校に進学することが決まったという子どもたちもいる。

利用者からは、開催日数を増やしてほしい、訪問回数を増やしてほしいといった要望の声が届いているため、同法人では、今まで以上にスクールや訪問支援の回数を増やし、恒常的に支援を続けていく必要があると考えている。



不登校・ひきこもりの子どもたちに安心して過ごせる居場所を提供



助成団体:特定非営利活動法人 アスイク

<https://asuiku.org/>



助成金の効果を一過性ではなく、持続的に生かすために

助成金をいただきどうもありがとうございました。おかげさまで週に2回の拠点開催を継続するだけでなく、新たなスタッフを迎えることで居場所の多様性を担保でき、利用者の増加に繋がったと思います。また、スタッフを増員したことで訪問支援を開始することもできました。一過性のものではなく、継続していくことが大切な事業だと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 アスイク
ユニットリーダー 伊藤 雄高さん